

授 業 科 目	必・選	学 年	学 科	担当教員	単 位 数	授 業 時 間	自学自習時間
日本語表現 Japanese Expression	必修	4年	MC EB	岩田久美加 石塚政吾	2	通年週2時間 (合計60時間)	
[教 材] その他：自製プリントの配付 辞 書：国語辞典（電子辞書も可） 副教材：『スキルアップ！ 日本語力』東京書籍							
[授業の目標と概要] 将来の社会人として不可欠な日本語の知識と表現力を身に付け、意見や小論文、また実用的な文章が書けるようになる。また、プレゼンテーションやディベートを通して口頭表現の仕方について習熟する。							
[授業の進め方] 演習形式で行う。單元ごとに文章やレポートの書き方、発表やプレゼンテーションの仕方を学習する。また、日本語の語彙や文法・敬語について、その正しい理解と運用を学習する。							
[授業内容]							
授 業 項 目	時 間	内 容					
授業ガイダンス	1	授業の進め方と評価の仕方について説明する。					
(1) 自己紹介〈話〉	3	自分のよさを知り、音声言語で印象深く伝えることができる。					
(2) 学科紹介〈書〉	8	学科の特徴を知り、文字言語で印象深く伝えることができる。					
(3) 俳句〈書〉	4	俳句表現の特徴を理解し、創作することができる。					
(4) 要約〈書〉	6	キーワードを理解し、簡潔に要約文をまとめることができる。					
(5) 読み聞かせ〈話〉	4	状況や心情を踏まえて豊かに読み聞かせることができる。					
(6) はがき・手紙・メール 〈書〉	3	暑中見舞い、インターンシップの礼状等を適切に書くことができる。					
前期期末試験	なし	1 本授業のまとめ、および授業アンケート。					
(7) 発表〈話〉	6	インターンシップの様子をわかりやすく報告することができる。					
(8) レポート〈書〉	4	自分の立場や根拠を明確にし、文字言語で述べることができる。					
(9) ディベート〈話〉	4	自分の立場や根拠を明確にし、音声言語で述べることができる。					
(10) プレゼンテーション 〈話〉	6	図や表などを取り入れながら、研究テーマをわかりやすくかつ論理的に印象深く伝えることができる。					
(11) 小論文〈書〉	4	自分の立場や根拠を明確にし、文字言語で述べることができる。					
(12) エントリーシート 〈書〉	5	効果的なエントリーシートをまとめることができる。					
学年末試験	なし	1 本授業のまとめ、および授業アンケート。					
[到達目標] 日本語の語彙や文の組み立て、文章の構成についてよく理解し、自分の意見を確立して、それを書くこと・話すことの両面において場面や問題に応じ適切に運用・発表できるようになること。							
[評価方法] 合格点は60点である。要約文や意見文・小論文などの提出物や口頭発表、またプリントやノート の点検ごとに点数をつけ、その総点を回数で割って評価する。							
[認証評価関連科目] 国語ⅠA、 国語ⅠB、 国語Ⅱ、 国語Ⅲ							
[J A B E E 関連科目]							
[学習上の注意] 普段から新聞やTVのニュースをよく見聞き、日本語や社会の抱える問題について、知識を広く持ちそれらの様々な面について自分の考えを深めておくようにすること。							
達成しようとしている 基本的な成果	(A)	秋田高専学習 ・教育目標	D-1	J A B E E 基準	f		

※「授業項目」の〈話〉は話すこと、〈書〉は書くこと。それぞれの單元における中心となる演習活動を表す。

授業科目	必・選	学年	学科	担当教員	単位数	授業時間	自学自習時間
スポーツ教育 I Sports Education I	必修	4年	M C	白根 弘也	1	後期週2時間 (合計30時間)	
[教材]							
[授業の目標と概要] 様々なスポーツの特性にふれ、生涯にわたりスポーツライフが継続できるように、それぞれにあったスポーツを見つける。また、効果的な練習・ゲームの学習をとおして、公正・協力・責任などの態度を育てる。							
[授業の進め方] 実技演習形式で進める。自己評価を踏まえ、各種目の活動チェックを随時行う。							
[授業内容]							
授業項目	時間	内 容					
授業ガイダンス	2	授業の進め方と評価の仕方について説明する。					
1 選択Ⅰ (外種目) (1) ソフトボール (2) サッカー (3) テニス	6	守備やバッティングの技術を活用し、自分たちでルールを確かめながらゲームを進めることができる。 ボール操作の技術を活用し、自分たちでルールを確かめながらゲームを進めることができる。 ラケット操作やサーブの技術を活用し、自分たちでルールを確かめながらゲームを進めることができる。					
2 選択Ⅱ (ニュースポーツ) (種目) ピロポロ、ユニカール、 ペタンク、ショートテニス、 ユニホック、インディアカ	6	各種目の特性を理解し、ルールを確かめながらゲームを進めることができる。					
3 選択Ⅲ (内種目) (1) 卓球 (2) バドミントン (3) バスケットボール (4) バレーボール	8	ラケット操作やサーブの技術を活用し、自分たちでルールを確かめてゲームを進めることができる。 ラケット操作やサーブの技術を活用し、自分たちでルールを確かめてゲームを進めることができる。 ドリブルやシュートの技術を活用し、自分たちでルールを確かめてゲームを進めることができる。 トスやレシーブ、サーブの技術を活用し、自分たちでルールを確かめてゲームを進めることができる。					
4 選択Ⅳ (内種目・ニュースポーツ) (種目) 卓球、バドミントン、 バスケットボール、 バレーボール、ピロポロ、 ユニカール、ペタンク、 ショートテニス、ユニホック、 インディアカ	8	各種目の特性を理解し、自ら進んで取り組み技術を向上させることができる。 本授業のまとめ・授業アンケート					
[到達目標] 種目別・教材別の技能、知識を身に付けることができること。また、シラバスに掲載以外の運動技能については、個人ごとに問題・課題を発見して目標を設定し、社会的態度及び生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力と態度を育てる。							
[評価方法] 各種目ごとの実技・技能の活動チェックが70%、出席状況・授業への取り組み方など平素の態度を30%とする。前期・後期ともに定期試験は行わない。 学年総合評価 = 実技チェック (70点) + 受講態度 (30点) 合格点は60点以上とする。							
[認証評価関連科目] 保健体育Ⅰ, 保健体育Ⅱ, 保健体育Ⅲ, スポーツ教育Ⅱ							
[JABEE関連科目] スポーツ教育Ⅱ							
[学習上の注意] 用器具の取り扱い等、安全確保に必要な事項を理解させ、活動環境に十分配慮する。							
達成しようとしている 基本的な成果	(A)	秋田高専学習 ・教育目標	C-4	JABEE 基準	h		

授業科目	必・選	学年	学科	担当教員	単位数	授業時間	自学自習時間
総合英語 I General English I	必修	4年	E・C	菅原 隆行	2	通年週2時間 (合計60時間)	
[教材] 教科書: 「The Expanding Universe of English」 東京大学出版会 「TOEICテスト 新・最強トリプル模試3」 The Japan Times 「Deep Listening Level 3」 日本英語検定協会通信教育部							
[授業の目標と概要] 英文の精読とTOEIC問題演習を通して、より高度な英語の運用能力を修得する。							
[授業の進め方] 演習形式で行い、小テスト (TOEICテスト) も随時実施する。アルク・ネットアカデミーは主に自学自習課題として使用する。試験結果が合格点に達しない場合、再試験を行うことがある。							
[授業内容]							
授業項目		時間	内容				
授業ガイダンス		1	授業の進め方と評価の仕方について説明する。				
Session 16 Packaging a Hamburger ①		8	ハンバーガー容器の歴史に関する英文を理解できる。				
TOEIC リスニング Part I ~ Part IV 演習		4	TOEICリスニング問題の傾向がわかる。				
(Deep Listening) Lesson 1~5		3	基礎的な内容の聞き取りができる。				
前期中間試験		1	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。				
試験の解説と解答		1	前期中間試験の解説と解答				
Session 16 Packaging a Hamburger ②		6	ハンバーガー容器の歴史に関する英文を理解できる。				
TOEIC リーディング Part V ~ Part VII 演習		3	TOEICリーディング問題の傾向がわかる。				
(Deep Listening) Lesson 6 ~ 10		2	より詳細な情報を理解することができる。				
前期末試験		あり	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。				
試験の解説と解答		2	前期末試験の解説と解答、および授業アンケート				
Session 19 Fuzzy Fundamentals ①		8	ファジー理論に関する英文を理解できる。				
TOEIC リスニング Part I ~ Part IV 演習		3	TOEICリスニング問題のスピードに対応できる。				
(Deep Listening) Lesson 11~ 15		3	必要最低限のコミュニケーションのやりとりができる。				
後期中間試験		1	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。				
試験の解説と解答		1	後期中間試験の解説と解答				
Session 19 Fuzzy Fundamentals ②		6	ファジー理論に関する英文を理解できる。				
TOEIC リーディング Part V ~ Part VII 演習		4	速読により必要な情報を早く見つけることができる。				
(Deep Listening) Lesson 16 ~ 20		3	相手と簡単なディスカッションができる。				
学年末試験		あり	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。				
試験の解説と解答		2	学年末試験の解説と解答・授業のまとめ・授業アンケート				
[到達目標] 長い英文を正確に読みとる英語力と、TOEICスコア400点以上の英語力を身につけるのが目標である。							
[評価方法] 合格点は60点である。各中間、期末の成績は、試験成績60%、TOEICテスト40%で評価する。 学年総合成績 = (前期中間成績 + 前期末成績 + 後期中間成績 + 卒業成績) / 4 なお、TOEICスコアが300点未満の学生は、単位取得が困難になるので注意すること。							
[認証評価関連科目] 英語 I, 英語 II, 英語 III, 英語LL演習, 英語会話, 総合英語 II, 上級英語, 工業英語							
[JABEE関連科目] 総合英語II, 上級英語, 工業英語, (応用英語I・II・III)							
[学習上の注意] 宿題が多いので計画的に課題を進めること。宿題をしない学生は履修を放棄したとみなすので注意すること。							
達成しようとしている基本的な成果	(C)	秋田高専学習成果・教育目標	D-2	JABEE基準	a, f		

授 業 科 目	必・選	学 年	学 科 専 攻	担 当 教 員	単 位 数	授 業 時 間	自 学 自 習 時 間
ドイツ語 German	必修	4年	M E C B	桑本裕二	2	通年週2時間 (合計60時間)	
[教 材] 教科書：『Lecker! Lecker! Lecker! おいしく学ぶドイツ語』 郁文堂							
[授業の目標と概要] ドイツ語の初等文法を身につける。完全な文法事項の把握というよりは、英語といかに違うのか、あるいは似ているのかを認識し、それらの背景的知識がひいては英語学習の手助けとなることを望む。							
[授業の進め方] 演習形式で行います。教科書に沿って授業を進めます。適宜、辞書のひき方なども確認します。試験結果が合格点に達しない場合、再試験を行うことがあります。							
[授業内容]							
授 業 項 目		時 間	内 容				
授業ガイダンス		1	授業の進め方と評価の仕方について説明する。				
アルファベート・あいさつの言葉		1	アルファベート・挨拶の言葉を理解できる。				
1. 動詞の形・動詞の位置		4	動詞の現在活用、語順について理解できる。				
2. 冠詞と名詞の形		4	冠詞と名詞の格変化について理解できる。				
3. 語幹が代わる動詞・命令の形		4	動詞の不規則な現在活用・命令形について理解できる。				
前期中間試験		1	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。				
試験の解説と解答		1	前期中間試験の解説と解答				
4. 冠詞のそっくりさんたち		4	数詞・冠詞類・指示代名詞について理解できる。				
5. ich, du er などの3格と4格・前置詞の相手		4	人称代名詞の格変化・前置詞の格支配について理解できる。				
6. 助動詞を使った文・未来形があらわすもの		5	話法の助動詞・未来時称について理解できる。				
前期末試験		あり	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。				
試験の解説と解答		2	前期末試験の解説と解答、および授業アンケート				
7. ふたつに分かれる動詞・もう一人の自分・語順を替える接続詞		4	分離動詞・再帰動詞・従属の接続詞と語順について理解できる。				
8. 形容詞の語尾・形容詞の名詞への変身		5	形容詞の格変化・形容詞猪名詞化について理解できる。				
9. 動詞の3つの重要な形・過去をあらわす動詞の形		5	動詞の3基本形・過去人称変化について理解できる。				
後期中間試験		1	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。				
試験の解説と解答		1	後期中間試験の解説と解答				
10. 完了形はhabenまたはseinと過去分詞で		4	完了時称について理解できる。				
11. 比較の表現・zuのつく不定詞		4	形容詞の比較・zu不定詞について理解できる。				
13. 「…される」という言い方・動詞の形容詞への変身		5	受動・現在分詞について理解できる。				
学年末試験		あり	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。				
試験の解説と解答		2	学年末試験の解説と解答、本授業のまとめ、および授業アンケート				
[到達目標] ドイツ語の文法について一通りの理解をし、辞書を使えばどうにか簡単な文章なら理解できるという程度をめざす。							
[評価方法] 合格点は60点である。各中間、期末の成績は、試験結果100%で評価する。 学年総合成績 = (前期中間成績 + 前期末成績 + 後期中間成績 + 学年末成績) / 4							
[認証評価関連科目]							
[JABEE関連科目]							
[学習上の注意] 本科目は、英語で求められるような高度な語学運用力を養うものではない。英語との比較で様々な異同を感じられれば十分である。予習や宿題は一切必要としない。そのかわり授業の参加による理解が全てである。このことを肝に銘じ、熱心な授業参加を心がけてほしい。							
達成しようとしている基本的な成果	(C)	秋田高専学習・教育目標	A-1	J A B E E 基準	a		

授 業 科 目	必・選	学 年	学 科 専 攻	担 当 教 員	単 位 数	授 業 時 間	自 学 自 習 時 間
社会と文化 Society & Culture	選択	4年	M E C B	桑本裕二	1	前期週2時間 (合計30時間)	
[教 材] 『中国語のしくみ』白水社							
[授業の目標と概要] 中華人民共和国、台湾で、漢民族の間で話されている中国語（北京官話）の文法の初歩を学びます。							
[授業の進め方] 講義および演習形式。試験結果が合格点に達しない場合、再試験を求めることがある。							
[授業内容]							
授 業 項 目		時 間	内 容				
授業ガイダンス		1	授業の進め方と評価の仕方について説明する。				
i							
1. 文字と発音のしくみ			左記内容について理解する。				
2. 書き方と語のしくみ			左記内容について理解する。				
3. 文のしくみ			左記内容について理解する。				
ii							
1. 区別のしくみ			左記内容について理解する。				
		-					
2. 動作のしくみ			左記内容について理解する。				
3. 「てにをは」のしくみ			左記内容について理解する。				
4. 数のしくみ			左記内容について理解する。				
5. 実際のしくみ			左記内容について理解する。				
前期末試験		あり	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。				
試験の解説と解答		2	前期末試験の解説と解答, および授業アンケート				
[到達目標] 中国語の言語体系について大まかにとらえること。							
[評価方法] 合格点は60点である。前期末の成績は、試験結果100%で評価する。							
[認証評価関連科目] 現代社会, 人類史I・II, 科学技術史, 技術者倫理							
[JABEE関連科目] 社会と文化, (日本文化論), (社会経済史)							
[学習上の注意] 日本語で使われる漢字とは少し字形の違う簡体字について、また、日本語や英語のアクセントとは違う音調である声調についての知識を中心にして、あいさつやその他のごく簡単な文法の習得を目指します。							
達成しようとしている基本的な成果	(A)	秋田高専学習・教育目標	A-1	J A B E E基準	a		

授 業 科 目	必・選	学 年	学科(組) 専 攻	担 当 教 員	単 位 数	授 業 時 間	自 学 自 習 時 間																																										
社会と文化 Society & Culture	選択	4年	M E C B	長井栄二	1	前期週2時間 (合計30時間)																																											
<p>[教 材] 参考書：「日本経済読本[第16版]」 金森久雄編 東洋経済新報社 「EUは国家を超えられるか」 平島健司著 岩波書店 その他： 自製プリントの配布</p>																																																	
<p>[授業の目標と概要] 戦後の日本、およびヨーロッパ近現代における地域をめぐる諸問題を、多様な観点から学ぶことにより、現代日本が置かれている問題状況を相対的に理解し、主体的に思考・行動していくために必要な基礎視角を習得する。</p>																																																	
<p>[授業の進め方] 講義形式で行う。 試験結果が合格点に達しない場合、再試験を行うことがある。</p>																																																	
<p>[授業内容]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>授 業 項 目</th> <th>時 間</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>授業のガイダンス</td> <td>1</td> <td>授業の進め方と評価の仕方について説明する。</td> </tr> <tr> <td>1 地域問題と地域政策</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>(1) 序論</td> <td>1</td> <td>地域政策の定義を学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>(2) 戦後日本の地域問題</td> <td>8</td> <td>戦後日本における地域問題の概要を学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>(3) 近代ドイツの地域政策</td> <td>4</td> <td>大戦前ドイツにおける地域政策の事例を学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>前期中間試験</td> <td>1</td> <td>上記項目について学習した内容の理解度を確認する。</td> </tr> <tr> <td>試験の解説と解答</td> <td>1</td> <td>前期中間試験の解説と解答</td> </tr> <tr> <td>2 戦後の欧州統合</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>(1) 序論</td> <td>1</td> <td>現代世界における本テーマの位置づけを学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>(2) 地域統合の過程</td> <td>8</td> <td>欧州地域統合の画期性と漸進性がわかる。</td> </tr> <tr> <td>(3) 統合の現状</td> <td>4</td> <td>EUの現状に関する事例を学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>前期末試験</td> <td>あり</td> <td>上記項目について学習した内容の理解度を確認する。</td> </tr> <tr> <td>試験の解説と解答</td> <td>2</td> <td>前期末試験の解説と解答、本授業のまとめ、および授業アンケート</td> </tr> </tbody> </table>								授 業 項 目	時 間	内 容	授業のガイダンス	1	授業の進め方と評価の仕方について説明する。	1 地域問題と地域政策			(1) 序論	1	地域政策の定義を学ぶ。	(2) 戦後日本の地域問題	8	戦後日本における地域問題の概要を学ぶ。	(3) 近代ドイツの地域政策	4	大戦前ドイツにおける地域政策の事例を学ぶ。	前期中間試験	1	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。	試験の解説と解答	1	前期中間試験の解説と解答	2 戦後の欧州統合			(1) 序論	1	現代世界における本テーマの位置づけを学ぶ。	(2) 地域統合の過程	8	欧州地域統合の画期性と漸進性がわかる。	(3) 統合の現状	4	EUの現状に関する事例を学ぶ。	前期末試験	あり	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。	試験の解説と解答	2	前期末試験の解説と解答、本授業のまとめ、および授業アンケート
授 業 項 目	時 間	内 容																																															
授業のガイダンス	1	授業の進め方と評価の仕方について説明する。																																															
1 地域問題と地域政策																																																	
(1) 序論	1	地域政策の定義を学ぶ。																																															
(2) 戦後日本の地域問題	8	戦後日本における地域問題の概要を学ぶ。																																															
(3) 近代ドイツの地域政策	4	大戦前ドイツにおける地域政策の事例を学ぶ。																																															
前期中間試験	1	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。																																															
試験の解説と解答	1	前期中間試験の解説と解答																																															
2 戦後の欧州統合																																																	
(1) 序論	1	現代世界における本テーマの位置づけを学ぶ。																																															
(2) 地域統合の過程	8	欧州地域統合の画期性と漸進性がわかる。																																															
(3) 統合の現状	4	EUの現状に関する事例を学ぶ。																																															
前期末試験	あり	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。																																															
試験の解説と解答	2	前期末試験の解説と解答、本授業のまとめ、および授業アンケート																																															
<p>[到達目標] 戦後日本の地域格差問題の特質を捉えることができるようになること。 戦後の欧州における地域統合の特質を捉えることができるようになること。</p>																																																	
<p>[評価方法] 合格点は60点である。各中間、期末の成績は、いずれも試験結果で評価する。 学年総合成績 = (中間成績 + 期末成績) / 2。</p>																																																	
<p>[認証評価関連科目] 現代社会, 人類史Ⅰ, 人類史Ⅱ, 科学技術史</p>																																																	
<p>[J A B E E 関連科目] (日本文化論), (社会経済史)</p>																																																	
<p>[学習上の注意] 今日の諸地域や世界の情勢について、複数のメディアを通じて情報に触れておくこと。 様々な見解を相対的に捉え、各自が自分なりに問題を整理する習慣を身に付けていくことが重要である。</p>																																																	
達成しようとしている 基本的な成果	(A)	秋田高専学習 ・教育目標	A-1	J A B E E 基準	a																																												

授 業 科 目	必・選	学年	学科(組) 専攻	担 当 教 員	単位数	授 業 時 間	自学自習時間
科学技術社会史 Social History of Science and Technology	選択	4	M E C B	吉葉恭行	1	前期週2時間 (合計30時間)	
[教 材] その他：自製プリントの配布							
[授業の目標と概要] 科学技術の発展は産業や社会のありかたをどのように変え、また産業・社会は科学技術に何を求めたのか。 19世紀後半～20世紀の科学技術の発展と産業・社会の変容とのかかわりについて、歴史的に考察し考える。							
[授業の進め方] 講義形式を基本とするが、必要に応じてグループ・ディスカッション等も実施する。 試験結果が合格点に達しない場合、再試験を行うことがある。							
[授業内容]							
授 業 項 目		時 間	内 容				
授業ガイダンス		1	授業の進め方と評価の仕方について説明する。				
1 19世紀の科学技術と社会		9	産業革命期における科学技術と産業の発展の関係を学ぶ。				
(1)産業革命と産業発展		4	産業革命期における社会変容について学ぶ。				
(2)産業革命期の社会変容							
前期中間試験		—	上記項目について学習した内容の理解度を授業の中で確認する。				
試験の解説と解答		1	前期中間試験の解説と解答				
2 20世紀の科学技術と社会		7	大量生産方式の発達と科学技術および社会の変容について学ぶ。				
(1)大量生産方式と科学技術		4	大戦期の科学技術の発達と社会の変容について学ぶ。				
(2)大戦期の科学技術と産業		2	戦後の科学技術の発達と社会の変容について学ぶ。				
(3)戦後の科学技術と産業							
前期末試験		あり	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。				
試験の解説と解答		2	前期末試験の解説と解答、授業のまとめ、および授業アンケート				
[到達目標] 科学技術と産業や社会の関係を歴史的に考察し理解する上で必要な学術的素養を身につけることにより、現代社会が抱える科学技術にかかわる諸問題を主体的に発見し考察が出来るようになること。							
[評価方法] 合格点は60点である。中間・期末の成績は試験結果で評価する。 学年総合成績 = (前期中間成績 + 前期末成績) / 2							
[認証評価関連科目] 現代社会、人類史Ⅰ・Ⅱ、科学技術史、技術者倫理							
[J A B E E 関連科目] 社会と文化、(日本文化論)、(社会経済史)							
[学習上の注意] 講義中は板書だけでなく、各自で口頭説明のメモを取る習慣を身に付けておくこと。 講義内容を深く理解するために、科学技術史の文献や歴史資料を調べ、情報を整理すること。 様々な見方を相対的に捉え、自分なりに整理する習慣を身に付けることが重要である。							
達成しようとしている 基本的な成果	(A)	学習・教育目標	A-1	J A B E E 基準	a		